

自己評価報告書

令和元年度 泰明小学校 自己評価報告書

学校名：中央区立泰明小学校

所在地：中央区銀座5-1-13

校長名：浮津 健史

児童数 322

学級数 12

教員数 27

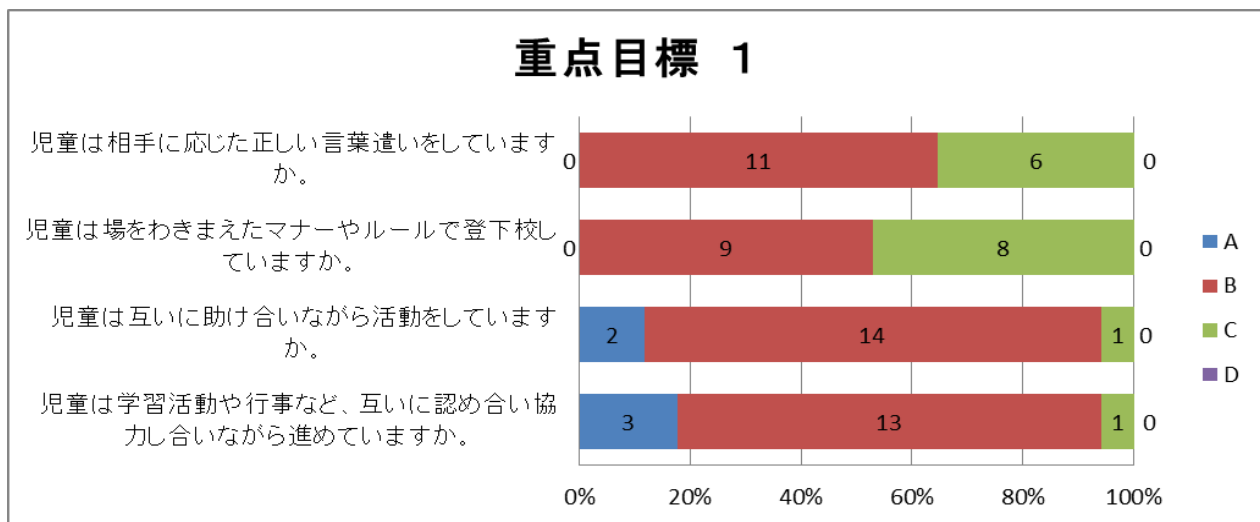
職員数 7

1 重点目標の達成状況及び取組状況

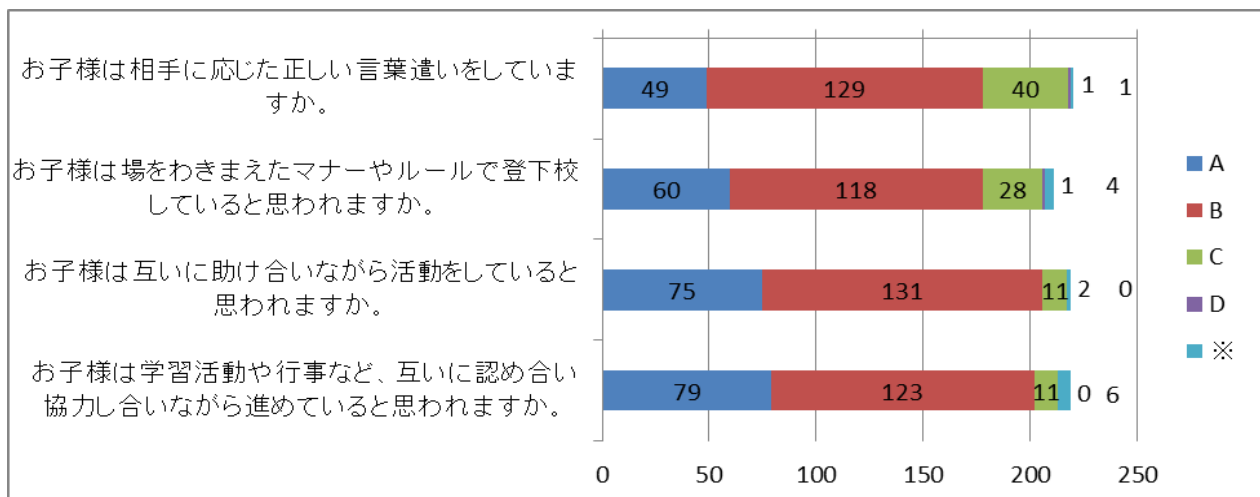
重点目標1 ○思いやりの心の育成

評価項目 ○言語環境の整備、規範意識、豊かな人間関係と社会性

【教員】



【保護者】

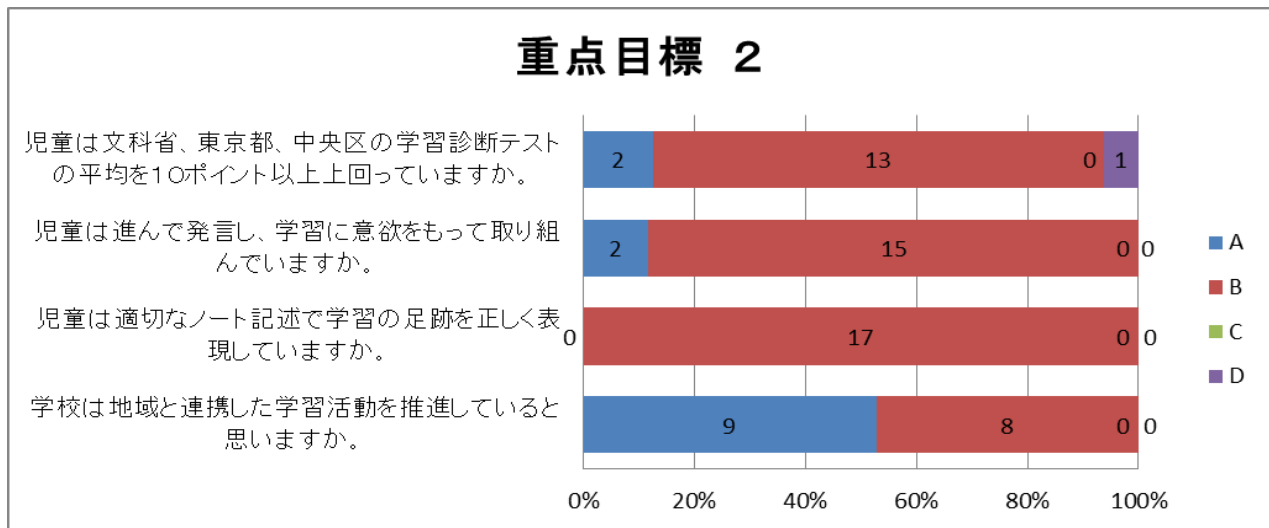


昨年度と比較すると、保護者の評価には大きな差異はなく例年通り高評価であった。一方、昨年まで厳しい意見が多かった教職員の評価が、全ての項目について、AまたはBの高評価が増加し、著しく向上した。これは、ここ数年間教師・保護者・地域等が協力し合うことで一丸となって児童の育成に当たることで、児童も安心して学校生活を送れたことによる、蓄年の成果と考える。一例として、研究教科体育科を中心とした心の教育、教師による当番制で乗車指導や、PTAによる毎週水曜日に実施している安全パトロールにより、一般からの苦情の激減等がある。

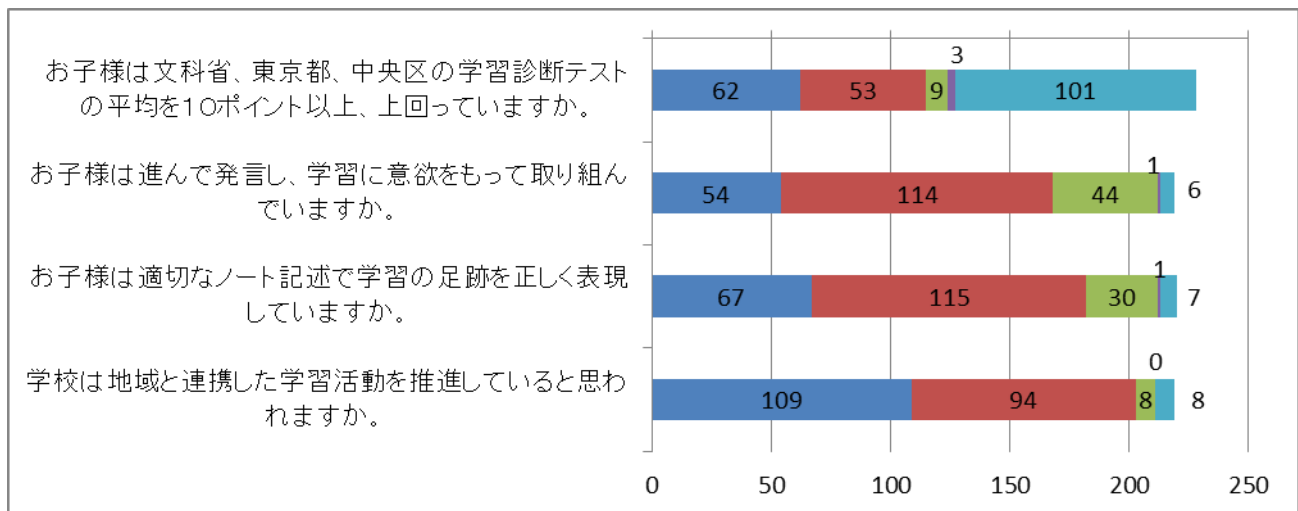
重点目標 2 ○確かな学力の保障と学習意欲の喚起

評価項目 ○基礎・基本の定着、学習意欲の向上、地域との連携による学習活動の推進

【教員】



【保護者】

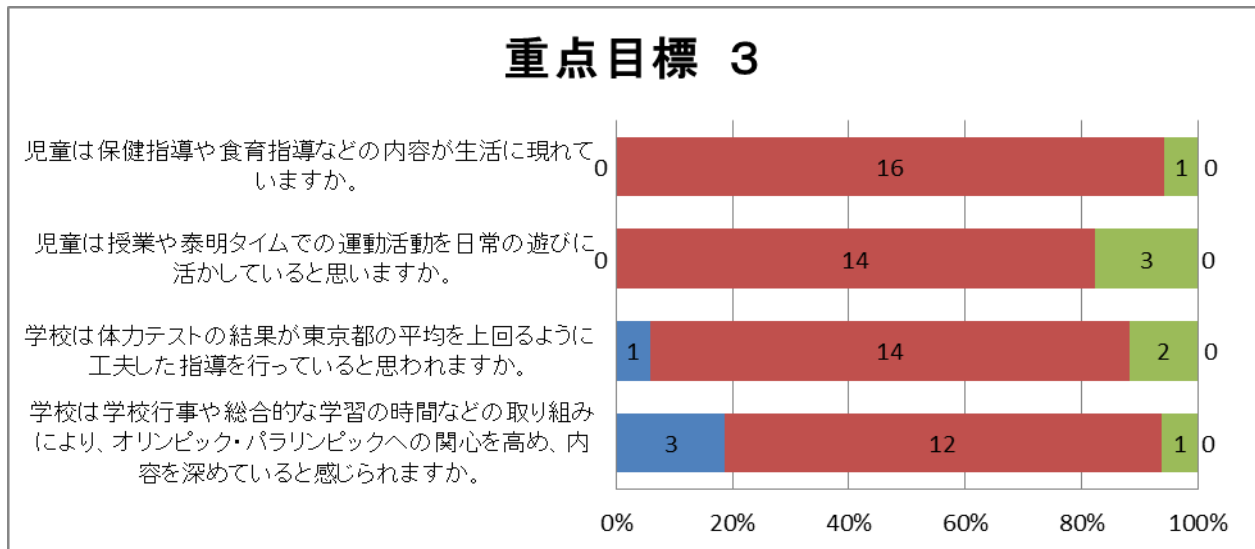


例年以上に概ね高評価となった。実際に、各種学力調査の結果も、昨年以上に好結果を得ており、学習内容の確かな定着が読み取れ、安定した学力を維持していることが分かる。ただし、平均して全体的な学力が高い一方で、学習に支援を要する児童もおり、それらの子の学力を伸ばす措置を講じる必要がある。算数科の習熟度別少人数指導を1・2年生は2学級3展開、3～6年生は2学級4展開で実施していることをはじめ、他教科においても非常勤講師や学習指導サポーター等を活用した授業を計画的に行うことで、基礎学力の定着につなげる等、引き続き、指導法の工夫改善と校内環境の整備を進めていく。また、地域と連携した学習活動の推進については、特に、教員の評価において昨年度よりA評価が増加し、C・D評価が減少した。これは、例年行われている地域との連携に加え、地域から多くの呼びかけを頂き、実際に連携して成功した内容が多かったためと考える。引き続き、協力関係を継続・発展していく。同時に、内容の精査も重要と考える。必要に応じ、取捨選択することも今後は求められる。

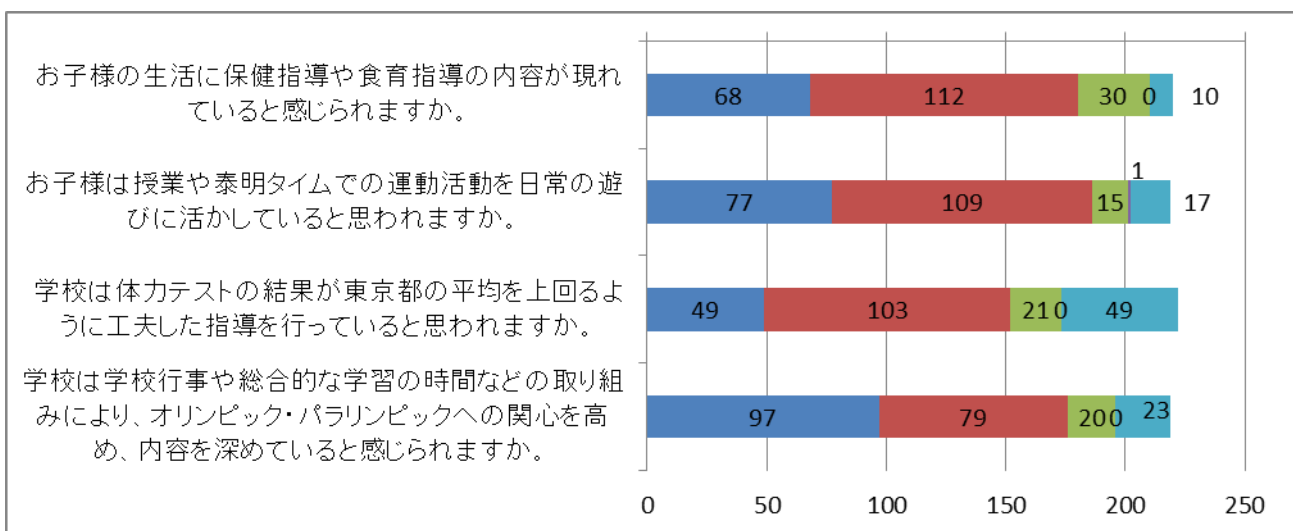
重点目標 3 ○児童の健康づくりの推進

評価項目 ○健康教育の推進、運動環境の整備、体育指導の充実、オリンピック・パラリンピック教育の推進

【教員】



【保護者】



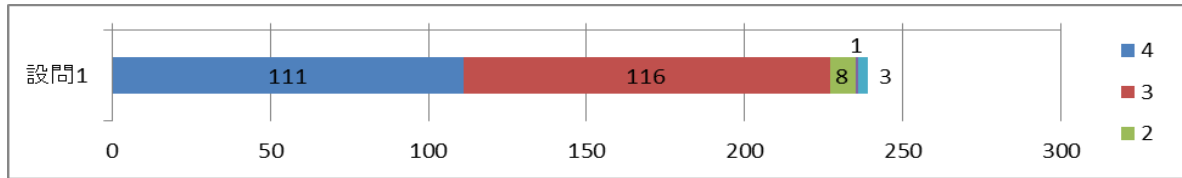
上記 2 点の重点目標同様に、教員の AB 評価が昨年より高い数値を獲得した。また、保護者は例年通り、概ね高い評価で安定している。この結果の一因として、今年度、新たに「体育科を通した心の教育」を研究テーマにあげ、様々な体育的活動を通して知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を目指したことが挙げられる。具体的には、「言葉がけなどによる児童間の高め合いの効果実証」や「児童の実態に即した新たな体育的活動の提案」、昨年度低迷していた「泰明タイム」や「なわとび教育」等による継続的な教育活動の充実を図った成果と考える。また、昨年度見られた教員自身の帰属意識の低さや指導力不足の問題がある程度解決した結果とも見て取れる。OJT等により一丸となって教育に取り組める体制作りが順調に進んだものとする。また、様々なゲストティーチャーによる体験教室やパラスポーツ教室・ラグビー教室、荒汐部屋によるすもう教室、銀座を走り抜ける「泰明マラソン」、一校一団運動によるインドボリウッドダンス等の取組は、保護者の

理解も得やすく、高評価に繋がったと考える。今後も、児童の学びに繋がるものは、積極的に取り入れていきたい。

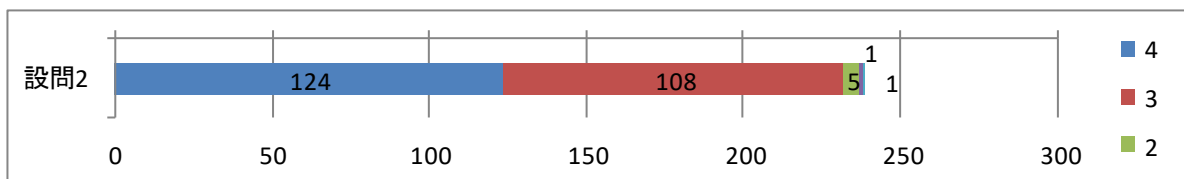
2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者アンケートの結果（個別質問）

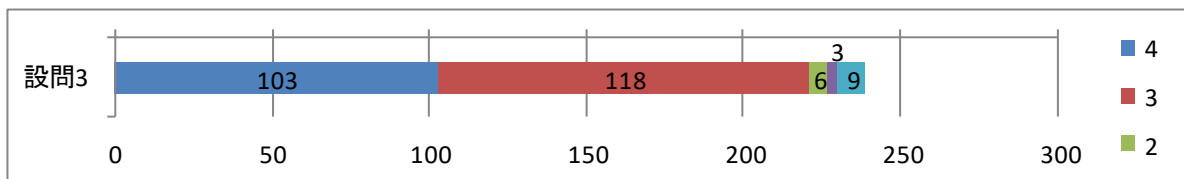
①学校は学習内容がわかりやすく楽しい授業をしている。



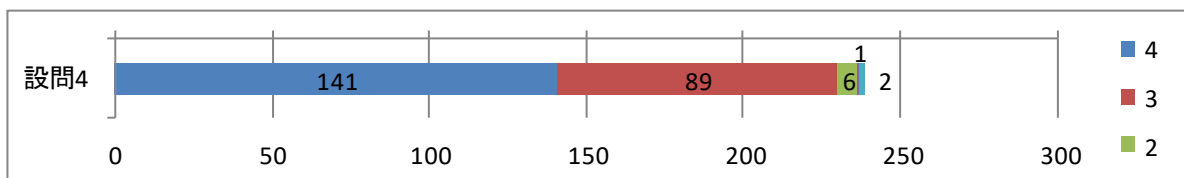
②学校は児童に基礎学力が身に付くように教えている。



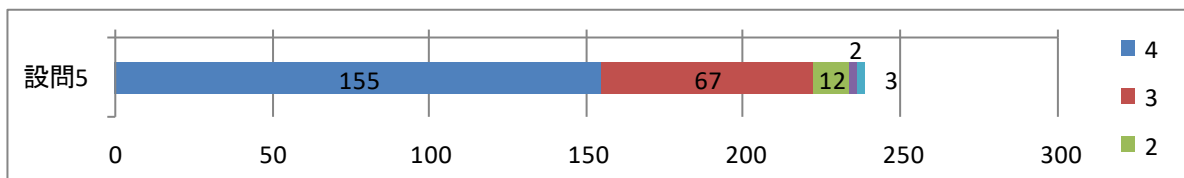
③学校は通知表等を通して児童の学力を適切に評価している。



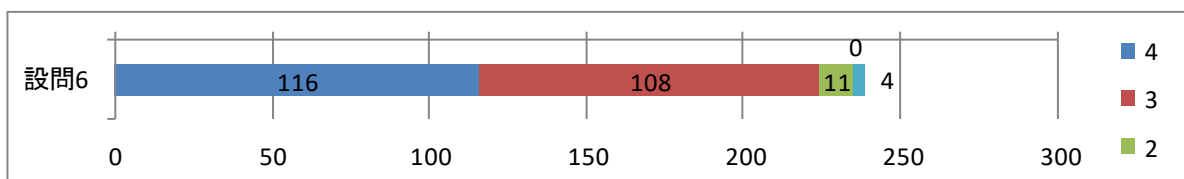
④学校は児童の努力を認めたり励ましたりして、温かく接している。



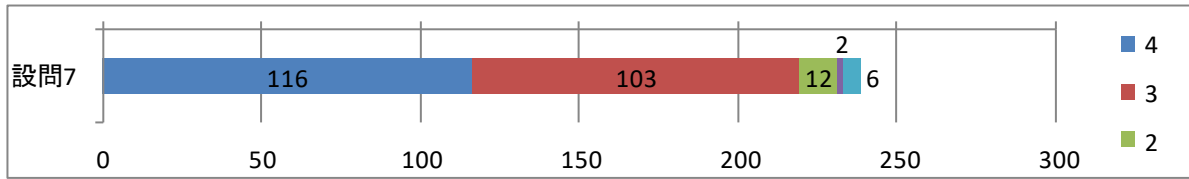
⑤児童は明るく生き生きと学校生活を送っている。



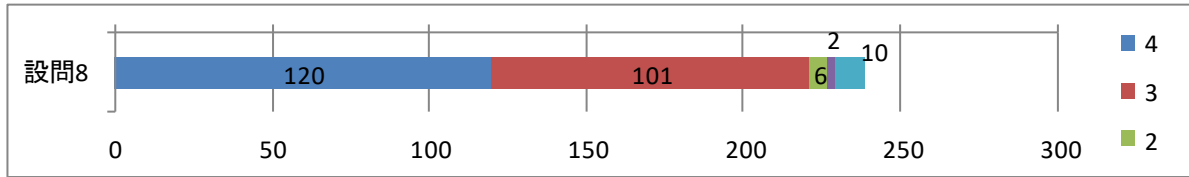
⑥学校は児童の健康・体力の増進に努めている。



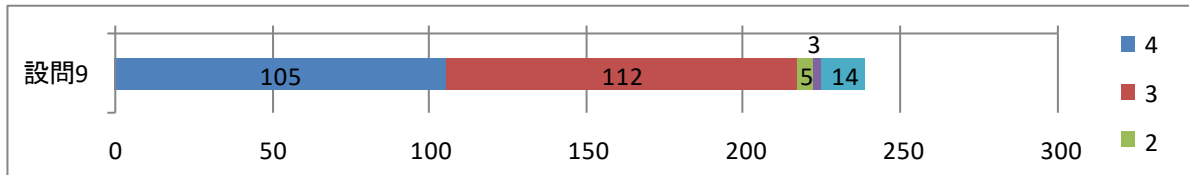
⑦学校は道徳教育に力をそそぎ、児童に思いやりの心や規範意識を育てている。



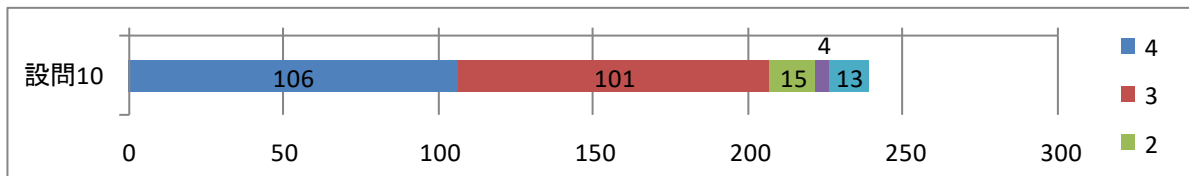
⑧学校はボランティア活動や清掃活動などの様々な奉仕活動を行っている。



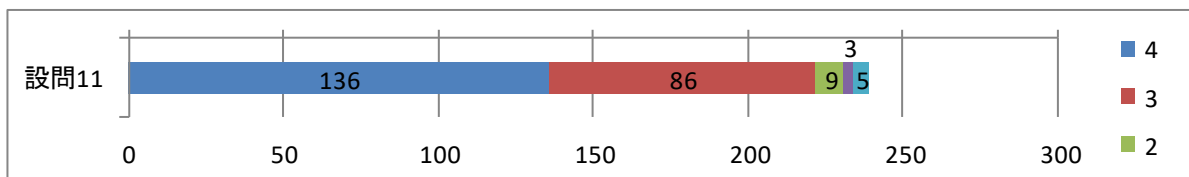
⑨学校は教育活動において人権を尊重する姿勢で子どもの指導にあたっている。



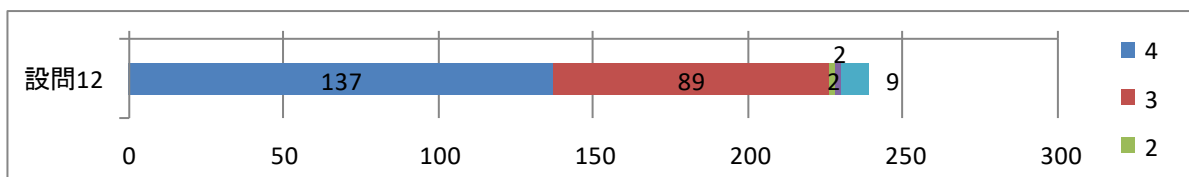
⑩学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりしている。



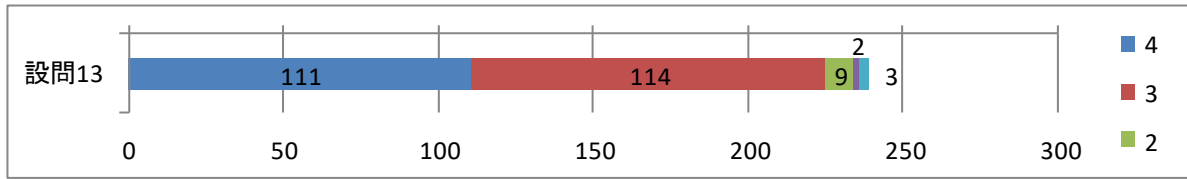
⑪学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している。



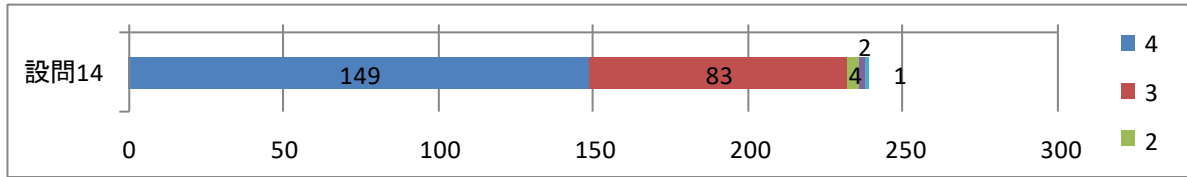
⑫学校は保護者や地域の人が積極的に教育活動にかかわれるようにしている。



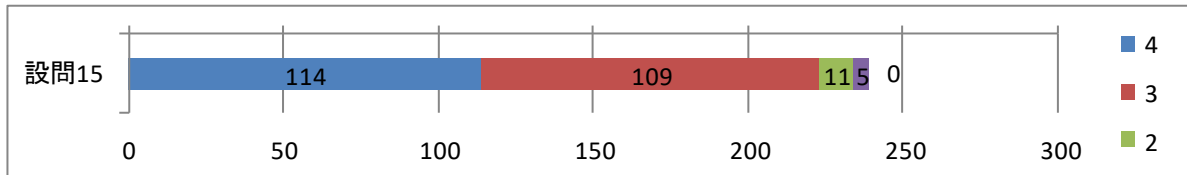
⑬学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている。



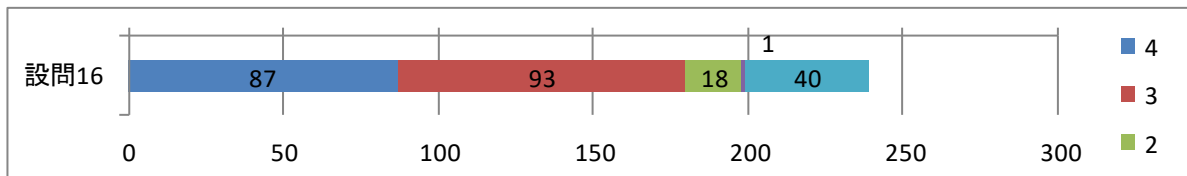
⑭学校は行事や学校公開などを通して児童の学習の様子や生活がわかるようにしている。



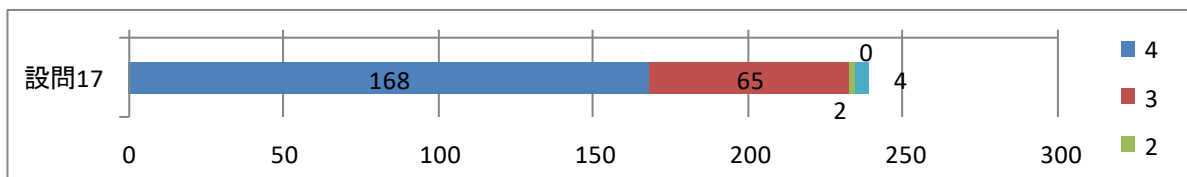
⑮学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすくても内容も適切である。



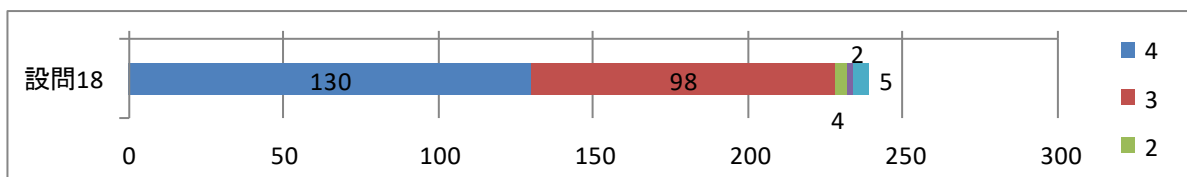
⑯学校はコンピュータや図書室を十分活用している。



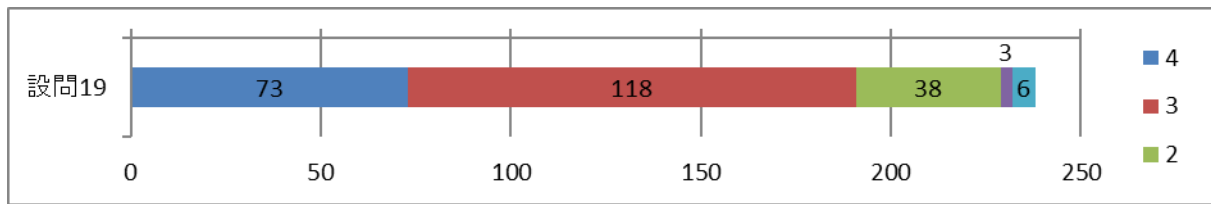
⑰学校は地域を生かした教育活動や行事がある。



⑱保護者は学校の教育活動に積極的にかかわっている。



⑱児童はマナーを守り、安全な通学を心がけていると思う。



ほとんどの項目で9割以上が良好との回答を得ているが、「学校はコンピュータや図書室を十分活用している。」の設問に対して、20%の方がそうは思わないと回答している。この設問は、例年低い傾向にある。実際には、計画的に活用して学習活動を行っているが、保護者へのアピールが足りないことに加え、設備面に課題がある。また、9月には、タブレットが導入されるとのことなので、教室での使用回数も増えることが予想される。外部講師等も招いて充実した教育活動に繋げる。

3 今後の改善方策

○思いやりの心の育成について

昨年度の改善方法が高じ、全体的に改善が見られた。引き続き、生活指導部を中心に、児童の生活指導について、児童自身が「いつでも・どこでも・だれにでも」を意識できるようにする。また、研究教科体育科の「心の教育」での成果と課題の検証を生かしていく。昨年に引き続き、正しい言葉遣いとあいさつ運動を継続する。また、いじめを絶対に許さない意識の醸成を充実させるとともに、公共心や社会規範を守る態度、善悪の判断、自主・自立の態度を養っていく。保護者とも連携し、「子どもだから」ではなく、「人として」という考え方で、育成を図る。

○確かな学力の保障と学習意欲の喚起

新学習指導要領全面実施となる令和2年度に向けた準備を進めていく。高評価を得ている算数科における習熟度別少人数指導をさらに推進し、思考力・判断力・表現力等を高める指導法の工夫改善を図るほか、すべての教科において基礎・基本のさらなる定着を目指す。そのため、OJT や研究・修養の機会を生かし、授業力の向上に努める。

○児童の健康づくりの推進

昨年度に引き続き、校内研究として、体育科の研究を行う。東京オリンピック・パラリンピックを見据え、オリンピック等トップアスリートによる出前授業や泰明マラソン等での意識の喚起を行うと共に、泰明タイムやマイスクールスポーツである「なわとび」の取組を充実させるなど日常的な体力向上の取組を推進する。また一校一國運動では、インドの同世代の児童との交流を計画する。